

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	理学療法治療学VI-②(皮膚)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	夜間部3年	学期及び曜時限	後期	教室名	901/機能訓練室
担当教員	金谷 規弘				
実務経験とその関連資格	理学療法士として一般病院(急性期・回復期・デイケア)、クリニックでの勤務経験あり。 臨床教育認定理学療法士・学校教育認定理学療法士の資格取得。 大学院にて修士(学術)の学位を取得。				
《授業科目における学習内容》					
疼痛・皮膚損傷(熱傷・褥瘡・創傷など)に対する基本的理学療法が説明できるようになる。 必要な理学療法評価(各検査測定(観察含む))・治療を選択・実践できるようになる。					
《成績評価の方法と基準》					
疼痛領域(他の講師)50点、皮膚領域50点で100点満点で成績をつける。 皮膚領域: 期末テストで50点(小テスト(または課題)で20点、期末テストで30点とすることあり)の成績評価とする。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
配布資料で行う。参考書:①標準理学療法学 運動療法各論 第4版(医学書院) ②機能障害科学入門(SHINRYOBUNKO) ③リハビリテーションビジュアルブック第2版(GAKKEN)					
《授業外における学習方法》					
(復習)実施後の授業内容を資料を基に復習すること。実技演習後は、その復習も行うこと。					
《履修に当たっての留意点》					
人体にとって、皮膚は保護組織であると同時に重要な感覚受容器でもある。触れる、触れられることで筋緊張が変化したり、心理面も変化が生じたりする。その重要性を意識しながら、履修内容を繰り返し復習して理解し、記憶して欲しい。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	創傷の回復過程を理解でき、理学療法を行う上でのリスクを理解できる。 (比較のため、他の組織(神経・腱・靭帯・半月板・骨など)のリスクも理	PC、 ^o ロジクター、配布資料	(復習)授業資料の理解 確認テスト	
	各コマにおける授業予定	創傷の回復過程を踏まえた理学療法の展開			
第2回	授業を通じての到達目標	熱傷の病態と分類を理解し、リスク管理について説明できる。	PC、 ^o ロジクター、配布資料	(復習)授業資料の理解 確認テスト	
	各コマにおける授業予定	熱傷① 熱傷の病態と分類、リスク管理			
第3回	授業を通じての到達目標	熱傷を考慮した理学療法評価、治療について説明できる。	PC、 ^o ロジクター、配布資料	(復習)授業資料の理解	
	各コマにおける授業予定	熱傷② 熱傷の評価と理学療法			
第4回	授業を通じての到達目標	褥創の病態と分類を理解し、リスク管理について説明できる。	PC、 ^o ロジクター、配布資料	(復習)授業資料の理解	
	各コマにおける授業予定	褥創① 褥創の病態と分類、リスク管理			
第5回	授業を通じての到達目標	褥創の評価、治療について説明できる。	PC、 ^o ロジクター、配布資料	(復習)授業資料の理解 確認テスト	
	各コマにおける授業予定	褥創② 褥創を配慮した評価と理学療法			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	熱傷を考慮した理学療法評価、治療が実施できる。	PC、プロジェクター、配布資料 実技室	(復習)授業資料の理解、反復練習
	各コマにおける授業予定	熱傷③ 熱傷を配慮した理学療法評価、治療(良肢位含む)		
第7回	授業を通じての到達目標	褥創を考慮した理学療法評価、治療が実施できる。	PC、プロジェクター、配布資料 実技室	(復習)授業資料の理解、反復練習
	各コマにおける授業予定	褥瘡③ 熱傷を配慮した理学療法評価、治療(体位変換、良肢位含む)		
第8回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			